

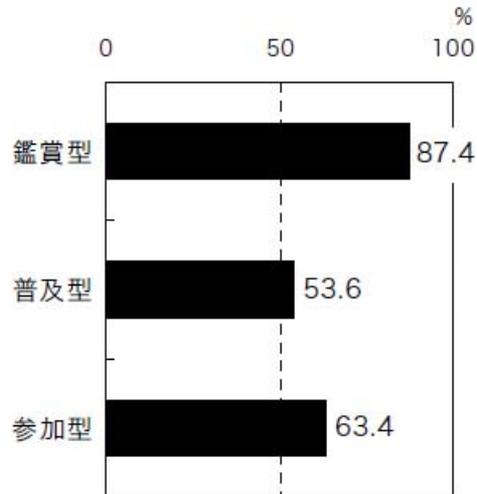
# 公立文化施設における舞台公演自主事業のタイプ別実施率／ジャンル別実施率

- 鑑賞機会の提供を目的とした「鑑賞型」自主公演実施率は87.4%、普及を目的とした「普及型」自主公演実施率は53.6%、市民が出演する「参加型」自主公演実施率は63.4%。
- 舞台公演のジャンル別の実施率では、音楽ジャンルの実施率が高く、「ポピュラー等音楽（クラシック以外）」が最も多く72.3%、次いで「クラシック音楽（オペラ含む）」が69.1%。

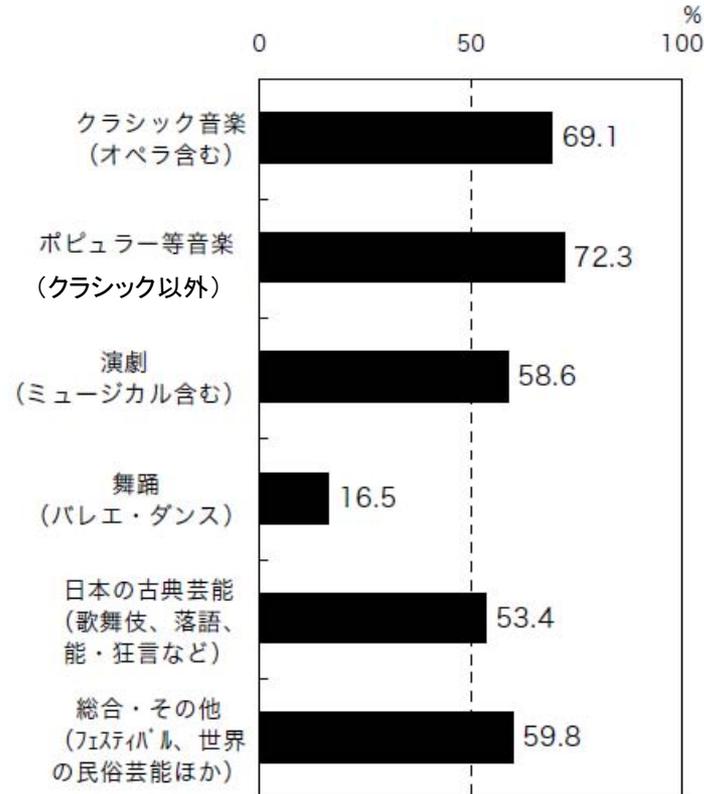
資料6

■平成20年度の舞台公演自主事業実施率 (n=943)

(タイプ別実施率)



(ジャンル別実施率)



※鑑賞型: 人気アーティストのコンサート、海外オーケストラ公演、有名劇団公演など、プロの優れた公演を有料で実施し、市民に優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供するもの。ある程度の収入をあげる目的のもの。

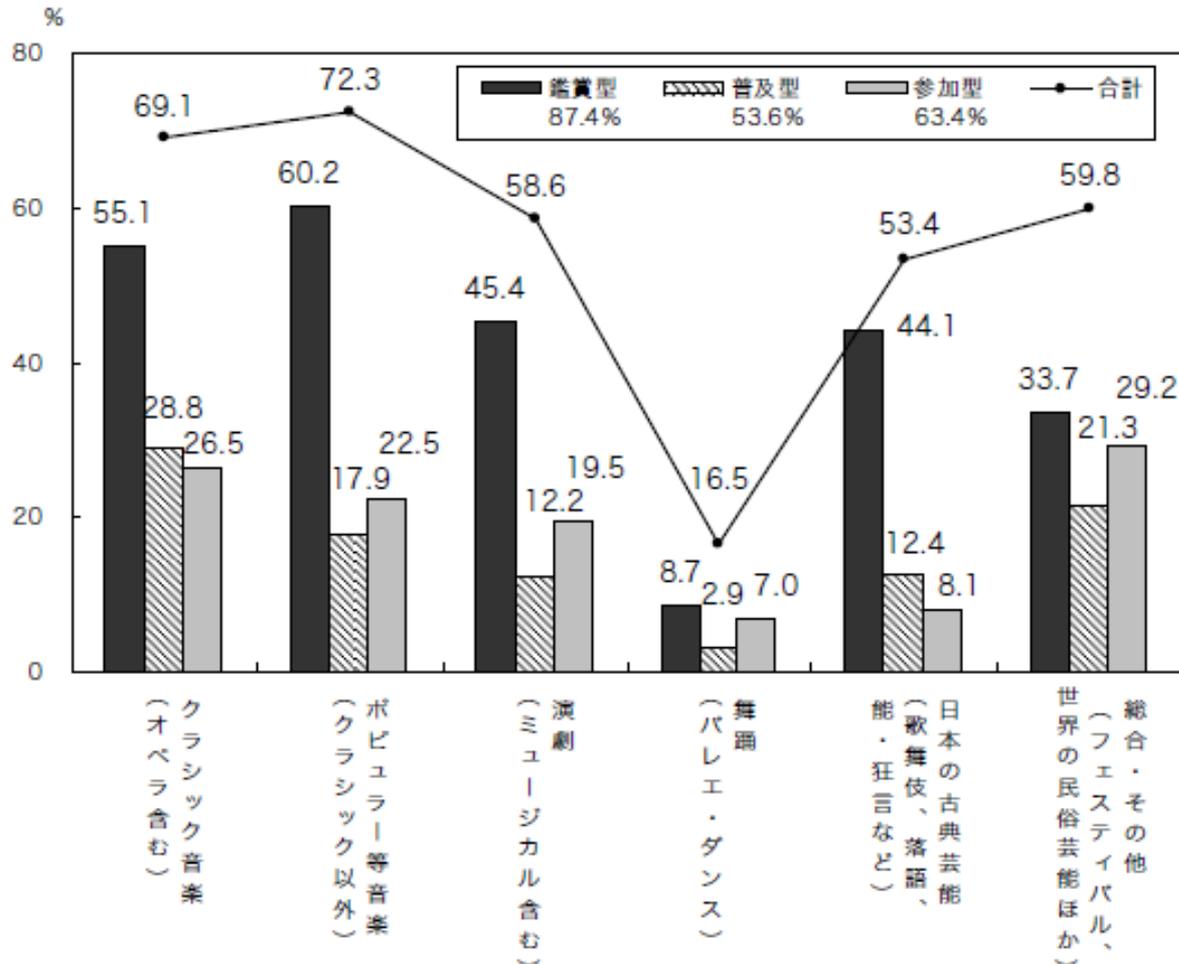
※普及型: ハガキ応募による市民向け無料演劇鑑賞会、ランチタイムのワンコインコンサートなど、無料、または極めて安価な料金設定にして、採算性よりも広く市民に芸術文化に親しんでもらうためのもの。

※参加型: 市民ミュージカルや吹奏楽コンクール、県民合唱など、市民自らが公演に出演するような事業。ワークショップ後の発表会的な公演を含む。

# 公立文化施設における舞台公演自主事業実施率（タイプ別×ジャンル別）

- 音楽ジャンルでは、「クラシック音楽」より「ポピュラー等音楽」の方が「鑑賞型」の実施率が高い一方、「普及型」「参加型」の実施率は低くなっている。
- 全体的に「鑑賞型」の実施率が高い中、「舞踊」「総合・その他」では「参加型」の割合が比較的高い。

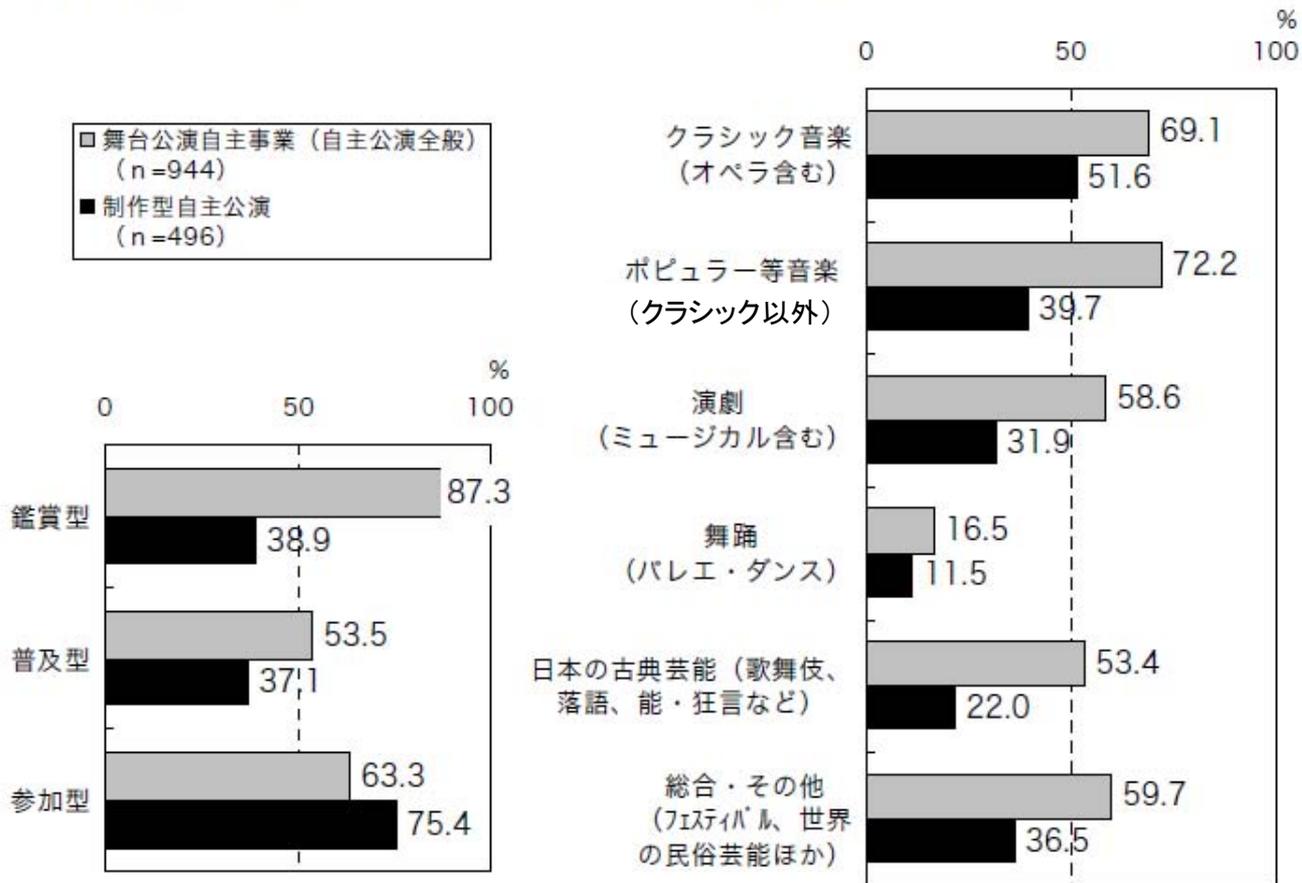
■平成20年度の舞台公演自主事業実施率（タイプ別×ジャンル別）（n=943）



# 公立文化施設における制作型自主公演のタイプ別実施率／ジャンル別実施率

- 制作型自主公演では、「参加型」の実施率が最も高い。一方、舞台公演自主事業全般では実施率87.3%であった「鑑賞型」は、制作型自主公演では38.9%となっている。
- 舞台公演のジャンル別に見ると、制作型自主公演では「クラシック音楽」が51.6%と最も高い。

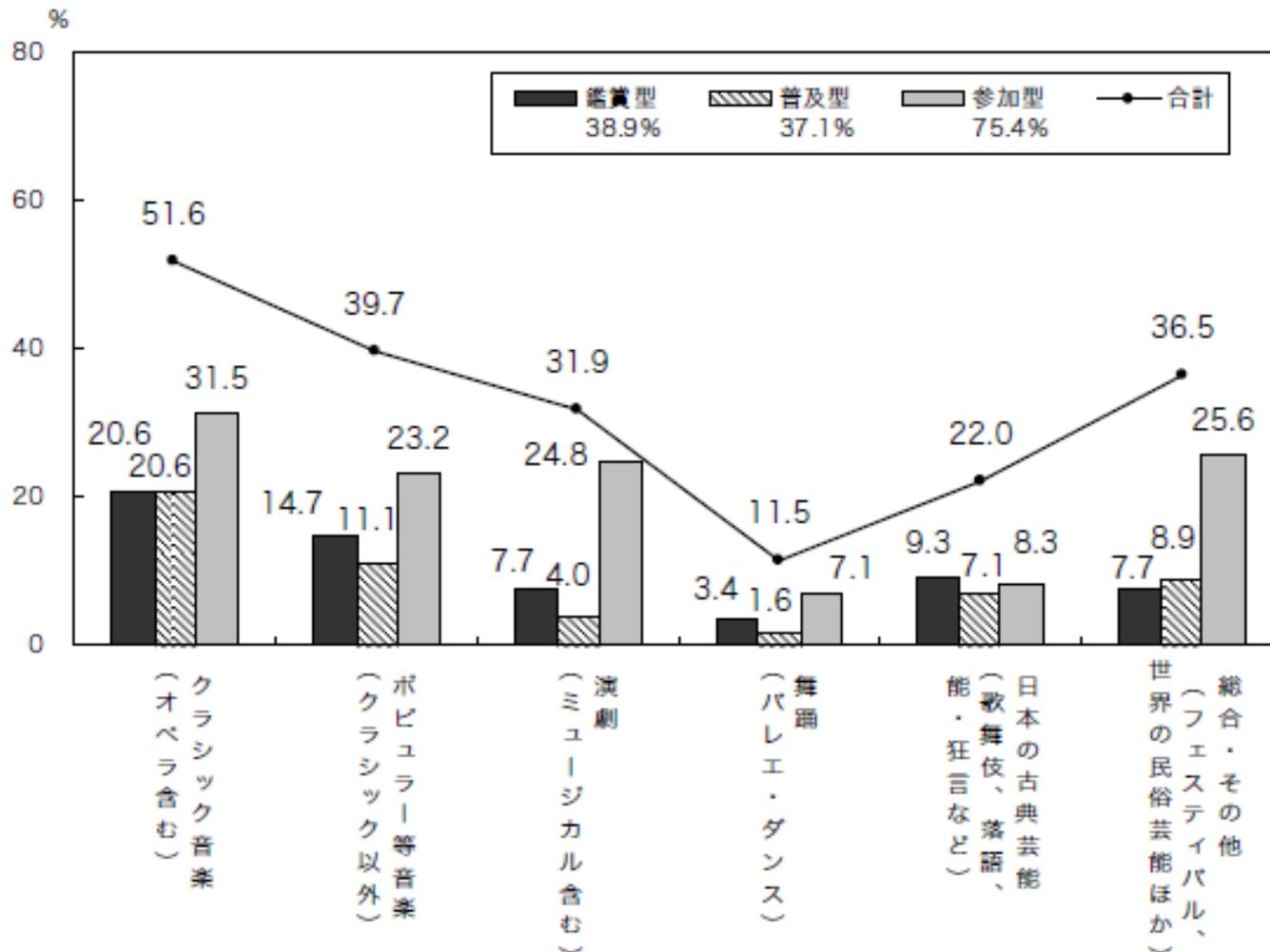
■手法別（全般／制作型）—平成20年度の舞台公演自主事業実施率  
 （タイプ別実施率） （ジャンル別実施率）



# 公立文化施設における制作型自主公演実施率（タイプ別×ジャンル別）

○ 「鑑賞型」「普及型」は、音楽ジャンルにおいて実施率が高く、その他のジャンルは10%以下である。

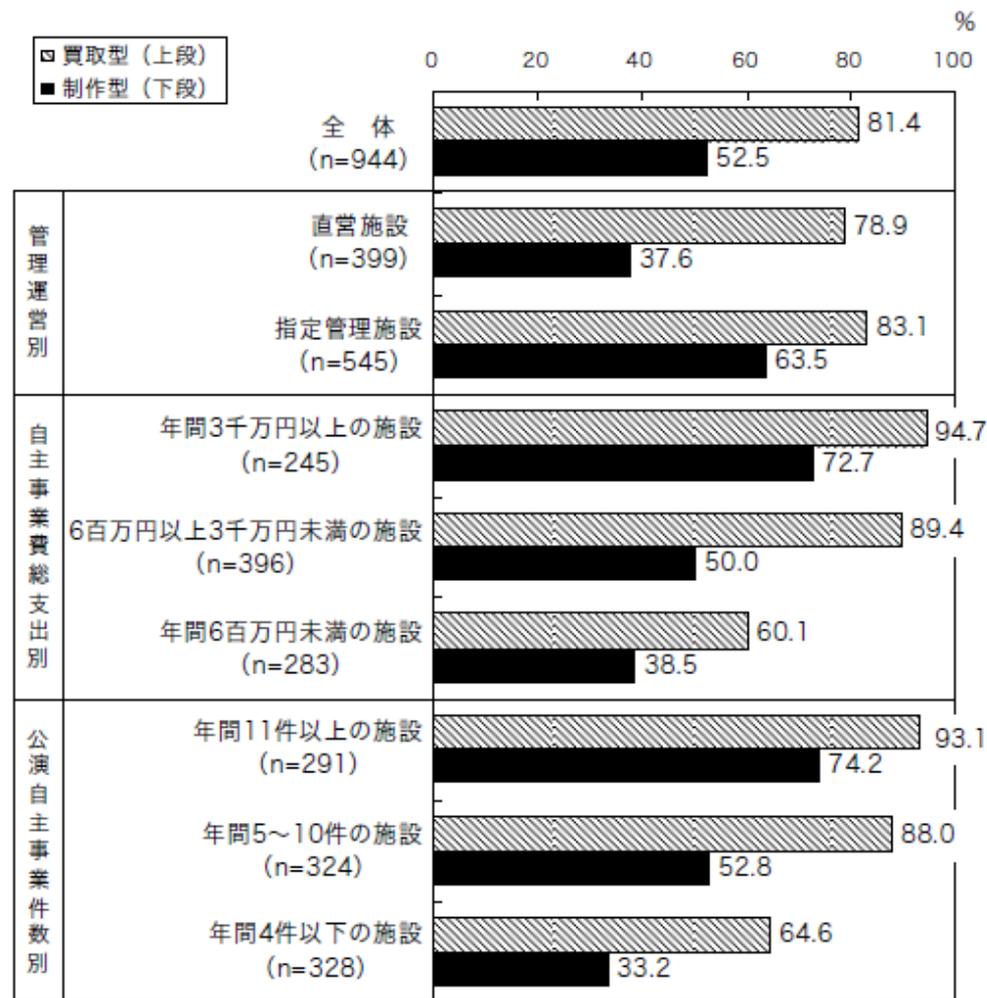
■制作型自主公演の実施率（タイプ別×ジャンル別）（n=496）



# 公立文化施設のうち舞台公演自主事業実施施設における「買取型」「制作型」公演の実施率

- 「買取型」自主公演実施率は81.4%、「制作型」自主公演実施率は52.5%。
- 管理運営別に見ると、「買取型」の実施率に差異はないが、「制作型」の実施率は指定管理施設の方が高い。
- 自主事業費総支出別、公演自主事業件数別に見ると、年間自主事業費6百万円以上、年間公演実施数5件以上の施設で「買取型」実施率が9割前後以上。

■舞台公演自主事業実施施設における「買取型」「制作型」公演の実施率



※「買取型」公演：音楽事務所など民間プロモーターや劇団・楽団、芸術創造団体等から公演を買い受け、ホールの自主事業として実施する公演のこと。

※「制作型」公演：ホールが独自にプロデュースする公演のこと。例えば、プロの実演家や実演団体と交渉して作り上げる公演、市民ミュージカルのように地域の人が参加する公演をホールが制作するものなど。

# 公立文化施設における舞台公演自主事業の実施内容を決定する際に重視するポイント (買取型／制作型別)

○ 自主公演の内容を決定する上で最も重視するポイントは、「買取型」自主公演では「集客力」である一方、「制作型」自主公演では「地域の文化振興に資するかどうか」である。

■自主公演事業の実施内容を決定する際に重視するポイント（手法別）（MA3 まで）

